

JaSST Review' 23

オープニング

風間 裕也

JaSST Review' 23 開幕！

ご参加いただき

ありがとうございます！

JaSST プレミアムスポンサー協賛企業

AGEST



その常識、変えてみせる。

SHIFT

加速しよう、未来を。

VERISERVE

TECHVAN

JaSST Review' 23 スポンサー協賛企業

10X様 デンソークリエイイト様

スポンサー様からのご案内

- 15:25～15:50頃まで
スポンサーセッションがあります
- オンラインちらしを公開中です
- 休憩時間中にもCMが
流れますのでお楽しみに！



自己紹介

- 風間裕也
- 株式会社10X
- JaSST Review実行委員長
- NPO法人ASTER個人正会員



お伝えしたいこと

- JaSST Review開催の経緯
- 聴講者の皆さんへの事前アンケート結果
 - 「レビュー」で思い浮かぶものは違う
- JaSST Review' 23の狙い
 - 「レビュー活動の言語化」
- 講演で期待していること
- 講演を見る際のお願い

JaSST **Review**

なぜJaSSTでレビュー？

- JaSSTは**ソフトウェアテスト**を扱っているシンポジウム
- JSTQB(ソフトウェアテスト技術者資格認定)には、「**静的技法でテストできる方法の一つ**」として紹介
- JaSSTで取り上げる事例の一分野にレビューがある
- 今年で6回目

レビューは未発展の分野

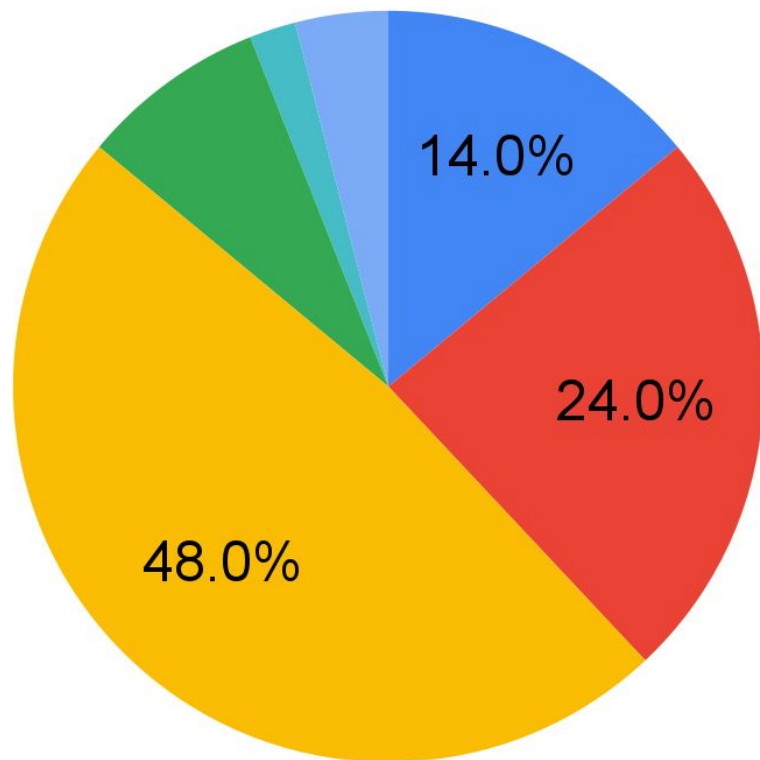
- 前回のJaSST Review' 22で講演されたMatt氏が考案した「実例マッピング」という手法がJSTQB FL シラバス2023年版の静的テストの項目に新規記載される
- テスト設計技法に比べて
レビュー設計技法は確立できていない

レビューは未発展の分野

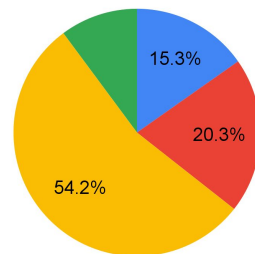
- 前回のJaSST Review' 22で講演されたMatt氏が考案した「実例マッピング」という手法がJSTQB FL シラバス2023年版の静的テストの項目に新規記載される
- テスト設計技法に比べてレビュー設計技法は確立できていない

聴講者の皆さんへの 事前アンケート結果

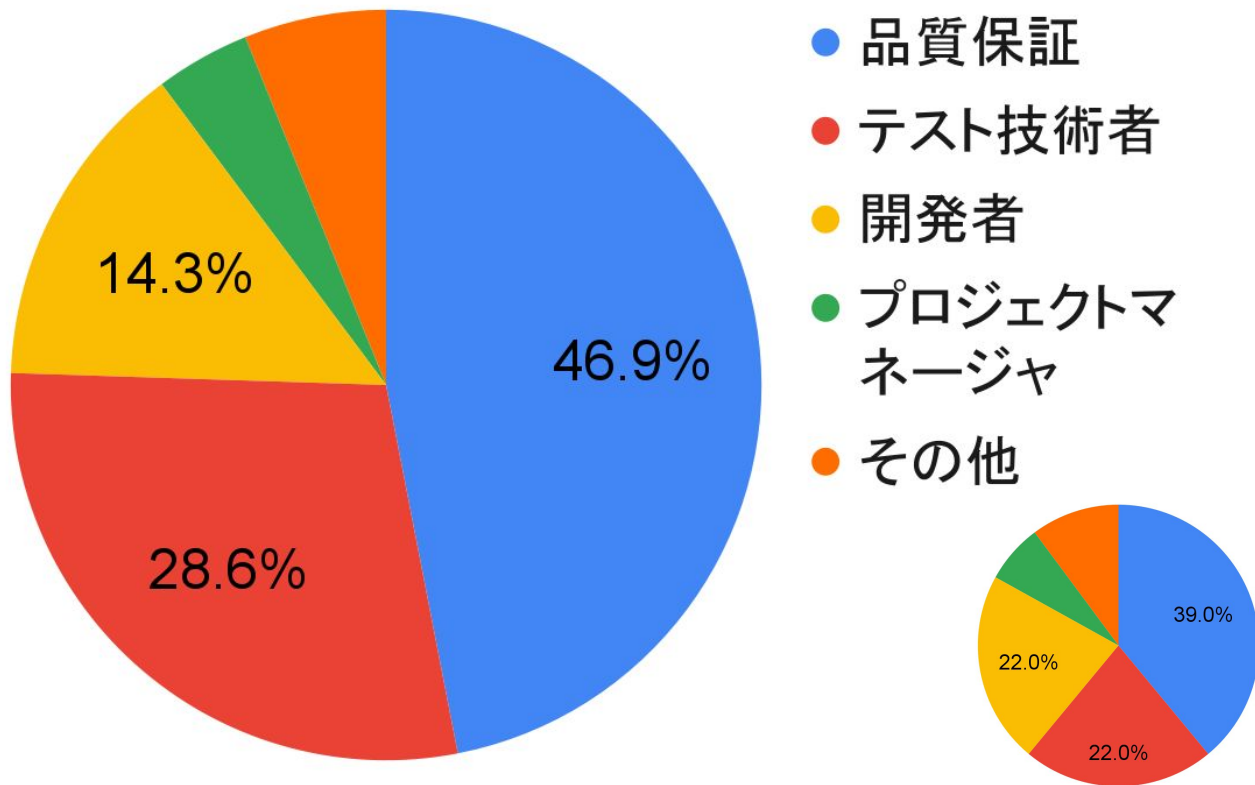
結果1: 製品分野



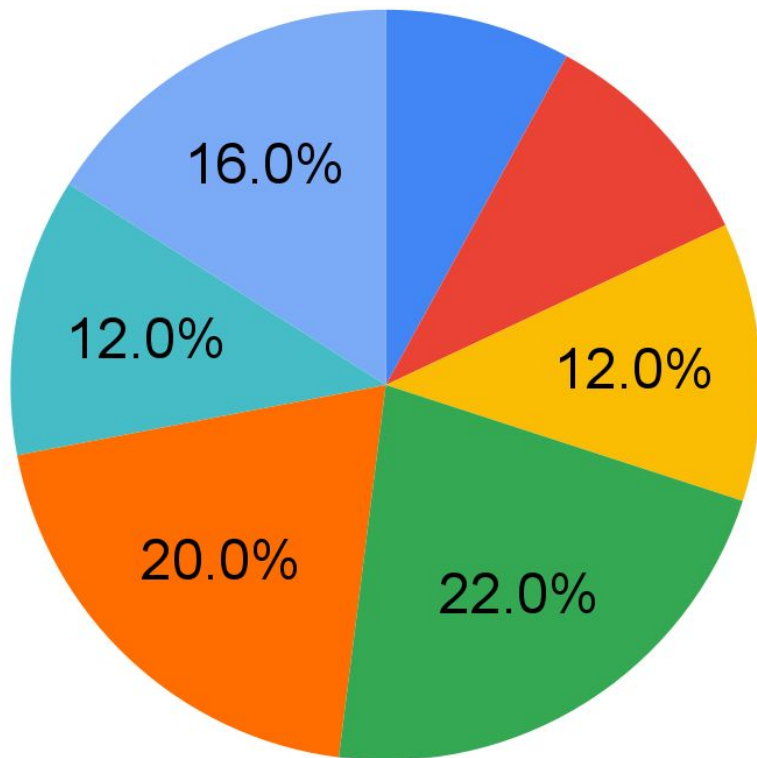
- 組込み系
- 業務システム
- WEB系
- パッケージ製品
- オープンソース
- 研究



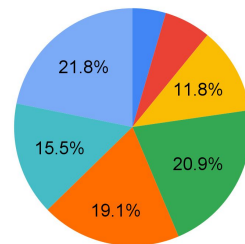
結果2: あなたの役割



結果3: 業務経験年数

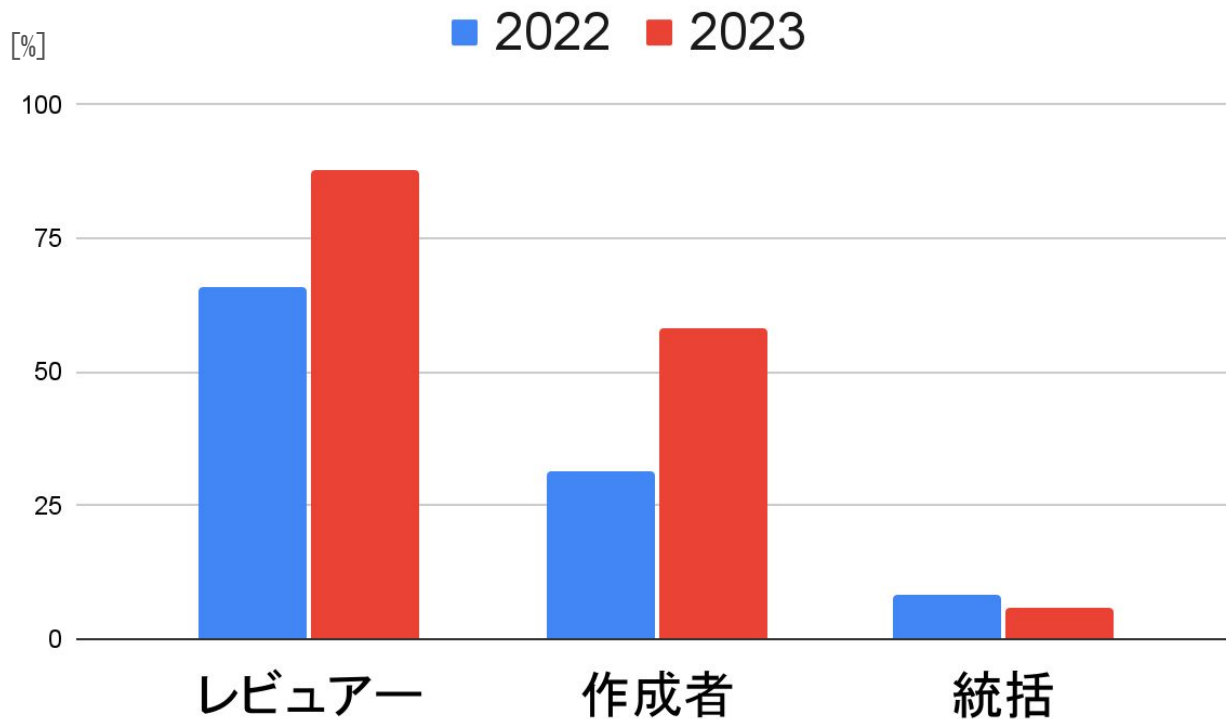


- 1年未満
- 2~3年
- 4~5年
- 6~10年
- 11~15年
- 16~19年
- 20年以上

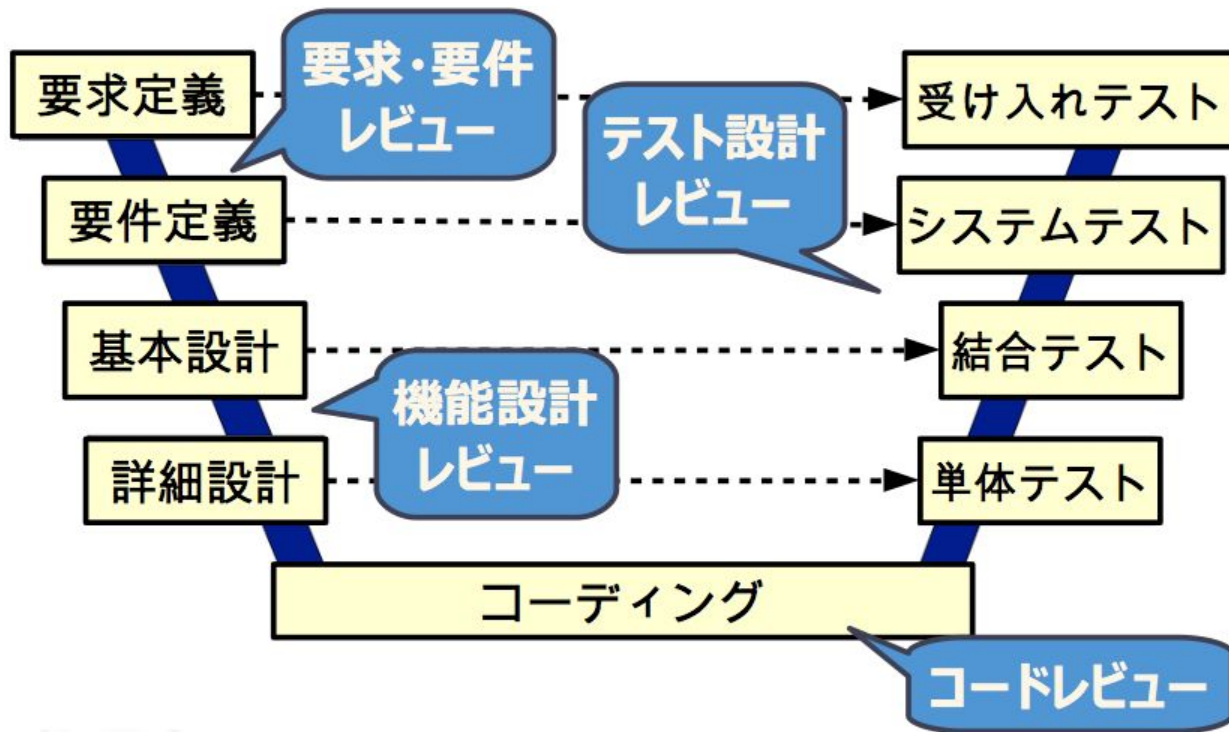


結果4: レビューにおける立場

※複数回答あり



結果5: レビューの対象物

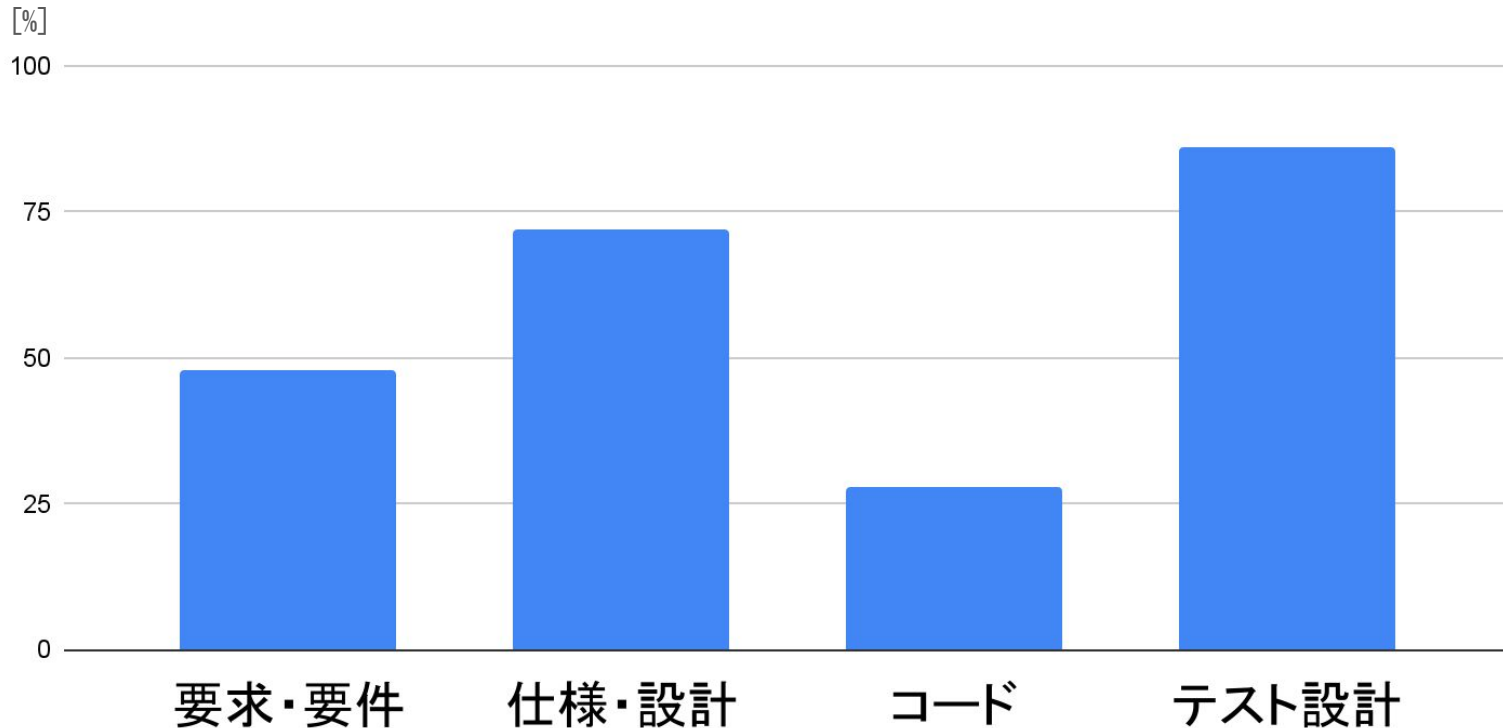


出典: JaSST'12 Tokyo 鈴木三紀夫「Wモデルとは何か」

<http://jasst.jp/symposium/jasst12tokyo/pdf/D4-1.pdf> を元に作成

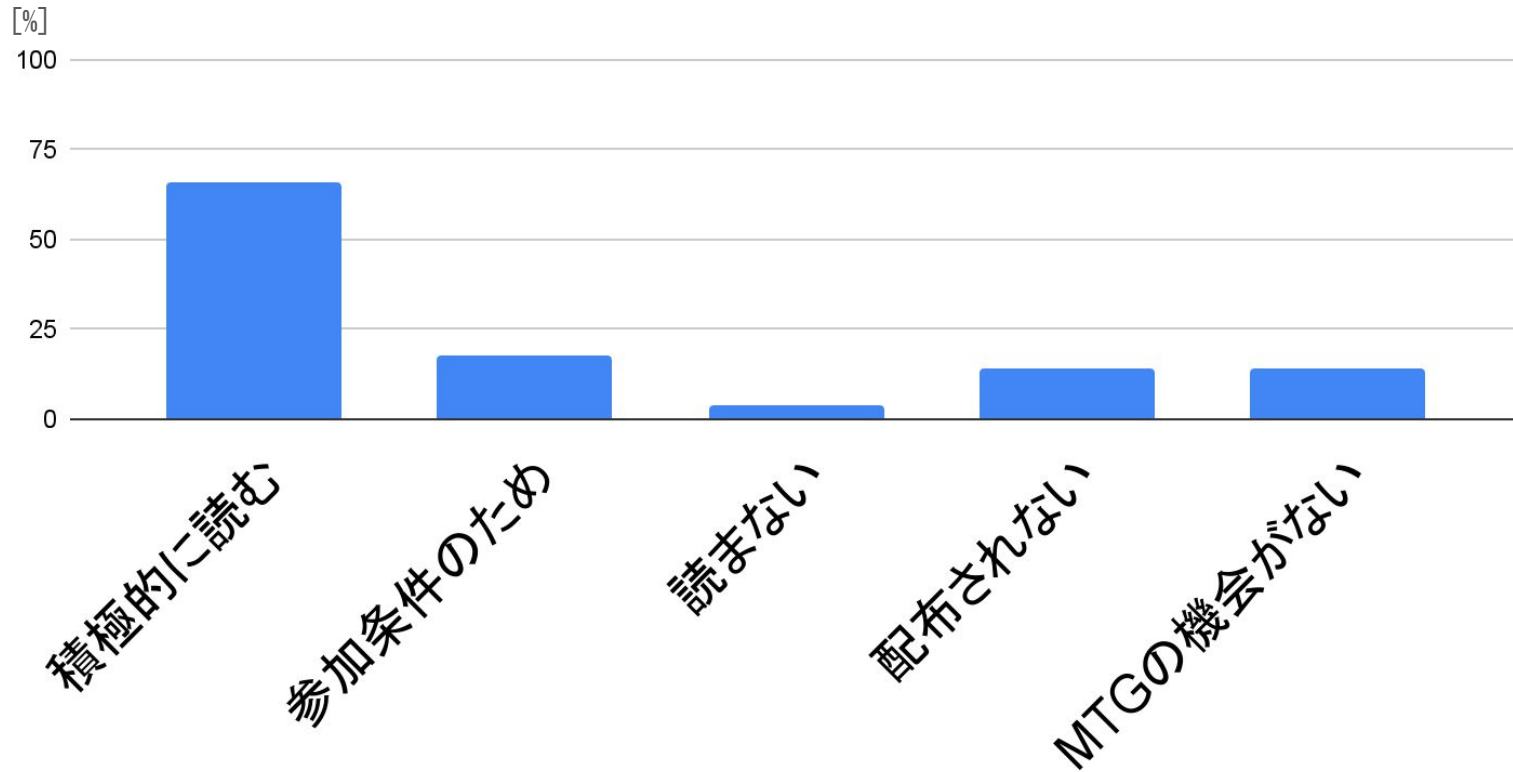
結果5: レビューの対象物

※複数回答あり



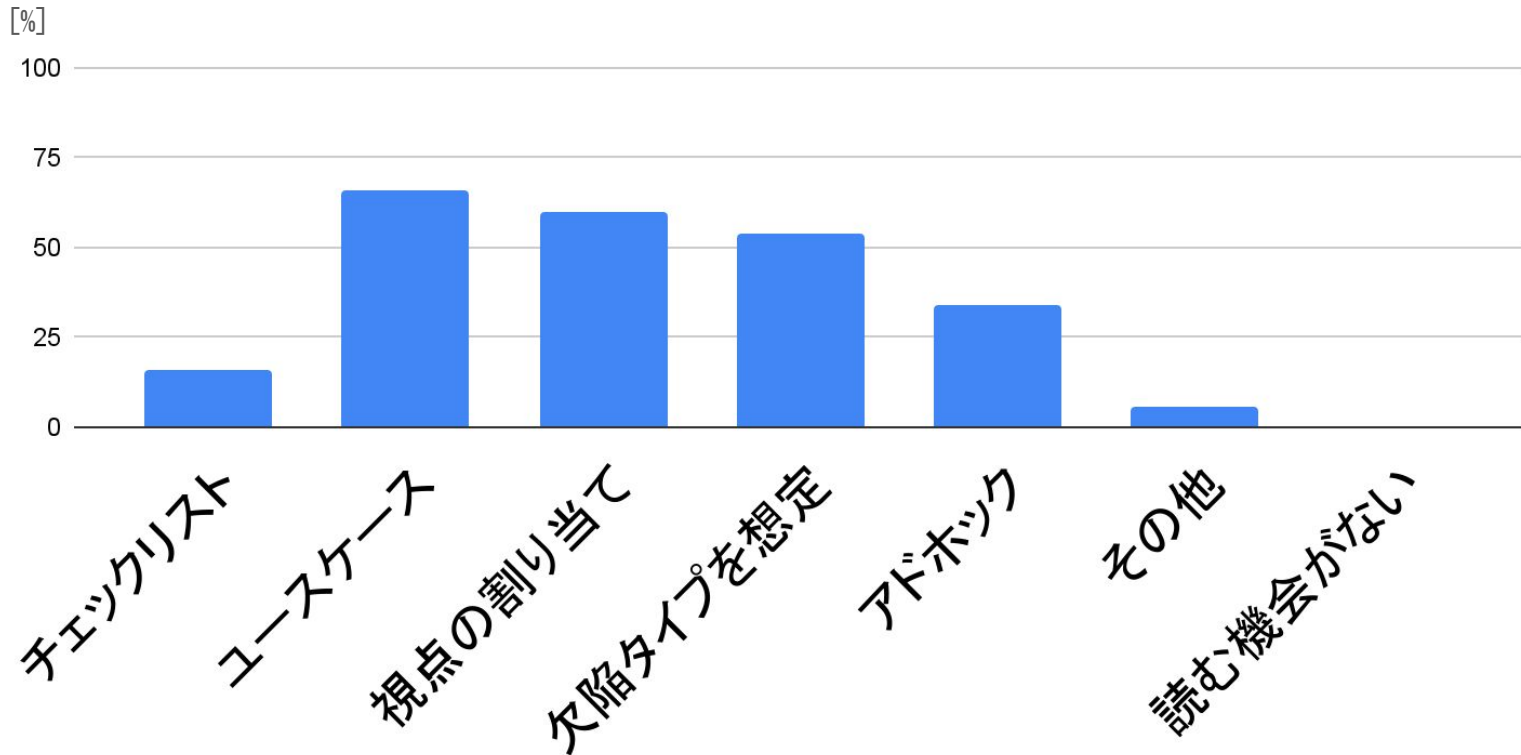
結果6: ドキュメントを事前に読むか

※複数回答あり



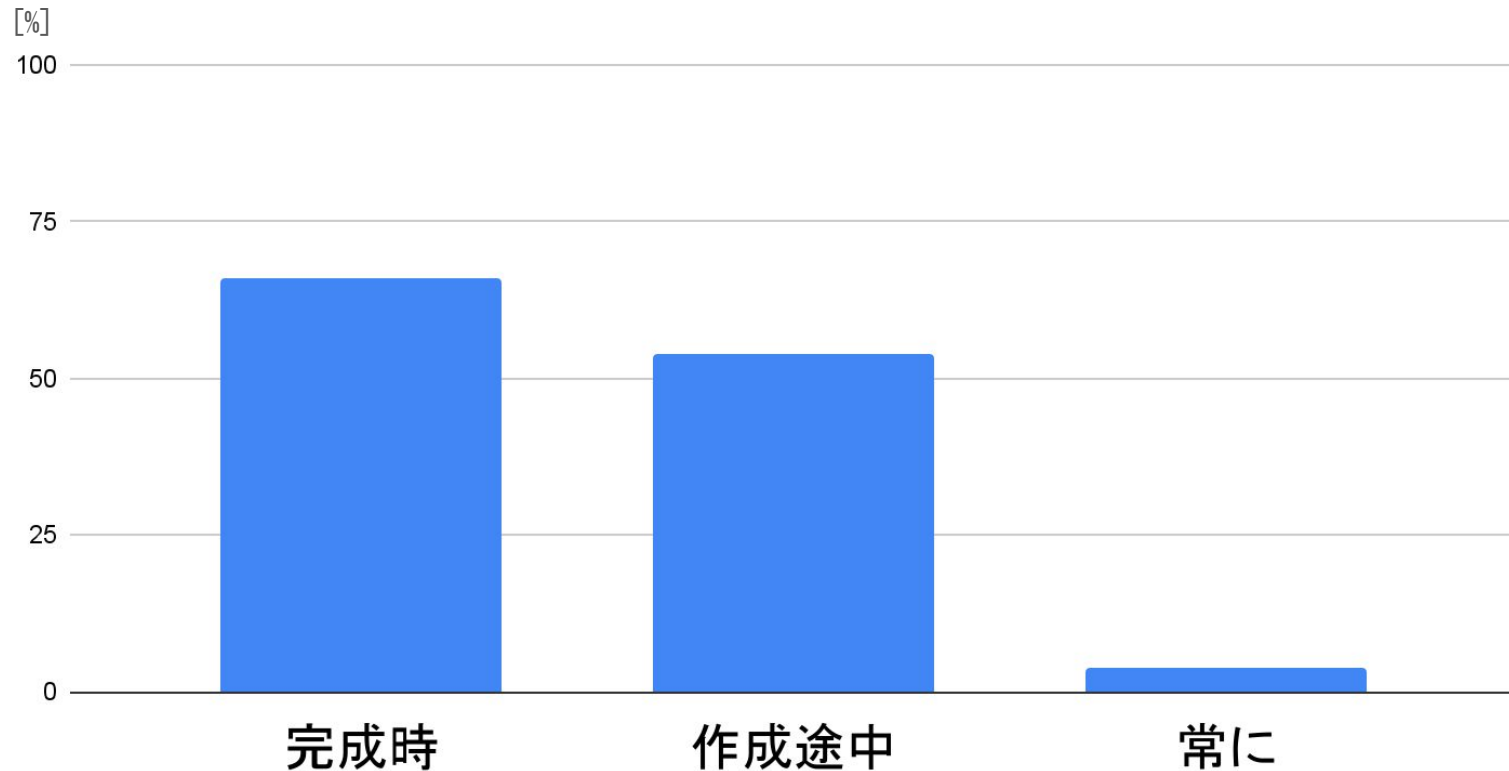
結果7: リーディング技法

※複数回答あり



結果8: レビューを行うタイミング

※複数回答あり



JaSST Review' 23の狙い

今回のJaSST Reviewの狙い

JaSST Reviewの実行委員内では、(中略)テスト活動との比較／対比による“**レビュー活動の言語化**”を進めています。

テスト活動と同様に、レビュー活動においても
「レビュー実施」だけではなく、「レビュー計画」や
「レビュー設計」、「レビュー実施前の準備活動」
「レビュー実施後の活動」が存在するのではないのでしょうか。

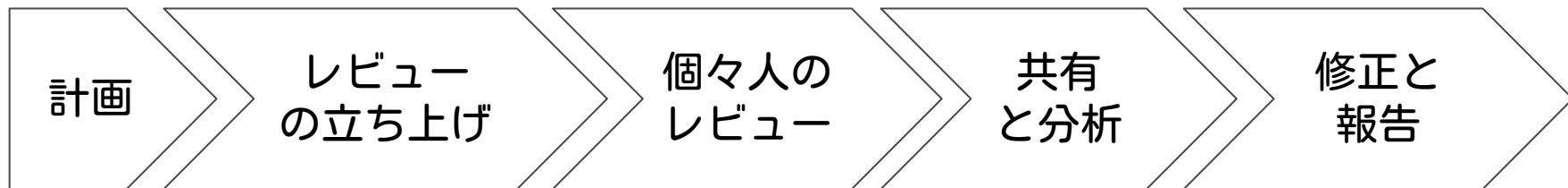
(『JaSST Review' 23 参加のお誘い』より)

**「レビュー活動の言語化」
とは何か？**

JSTQB FL
2023年版

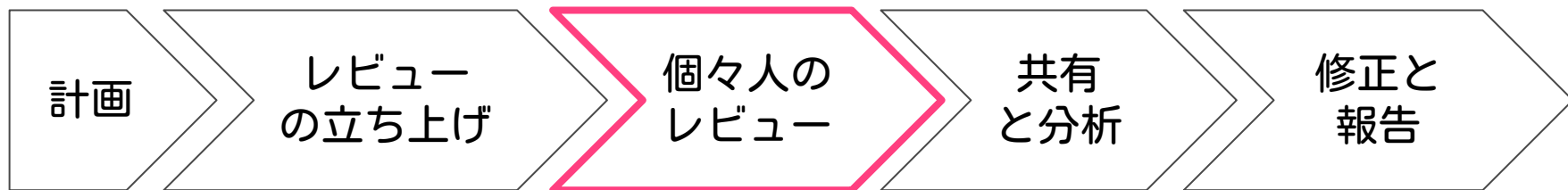
レビュープロセスが存在する

ISTQBでは、レビュープロセスを定義しています。
しかし、**細かいプロセスについての記述はありません。**



■ 個々人のレビューに対しての仮説

「個々人のレビュー」の部分について考えていきます。

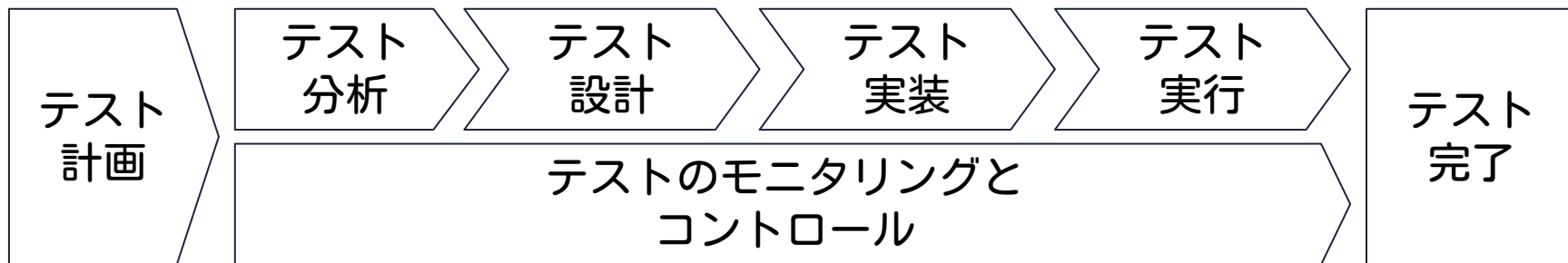


個々人のレビューとは、具体的にどのような思考プロセスを進めていくのでしょうか？

テストプロセス

JSTQB FL
2023年版

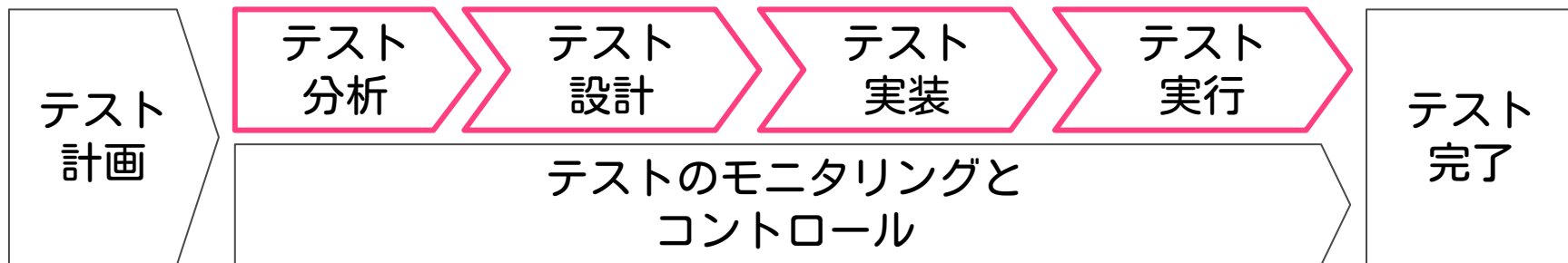
ここで参考になるのがテストプロセスです。
ISTQBでは、テストプロセスも定義しています。



テストプロセス

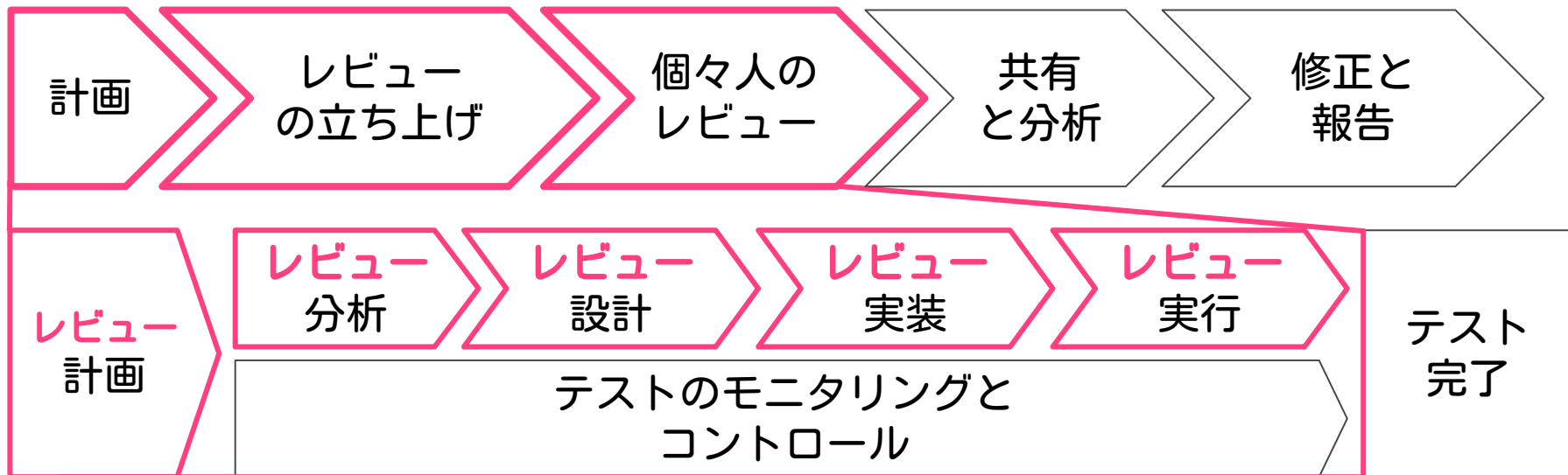
JSTQB FL
2023年版

テストプロセスでは、単に「個々のテスト実行」ではなくテスト分析、テスト設計、テスト実装、テスト実行と、**テストで行うことの思考を分けて表現**しています。



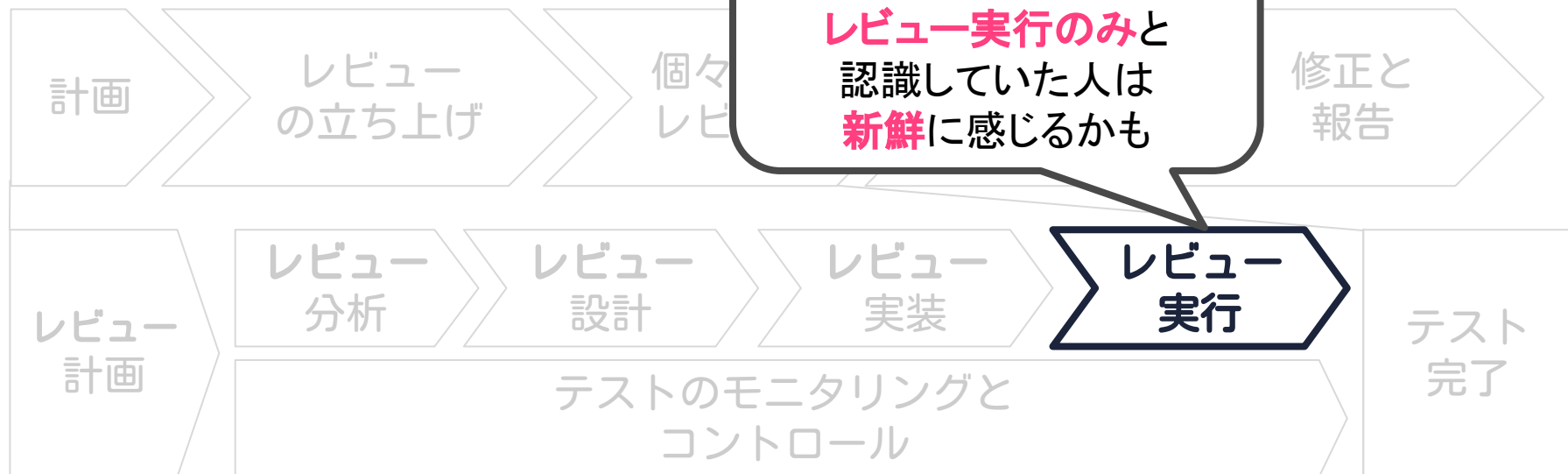
個々人のレビューに対しての仮説

同様の考えを用いれば、「個々人のレビュー」の具体的な思考プロセスを表現できるのではないのでしょうか？



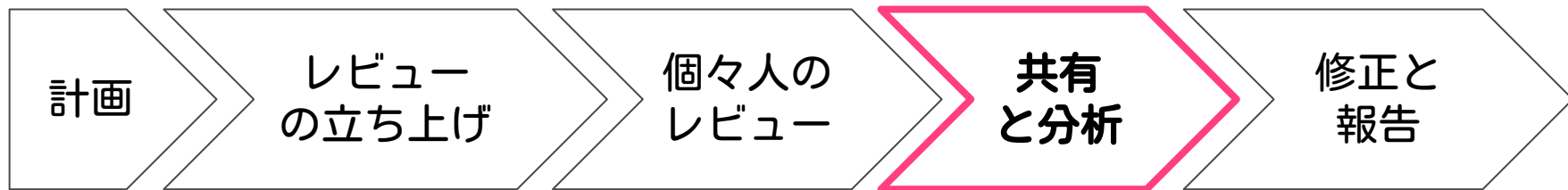
個々人のレビューに対しての仮説

同様の考えを用いれば、「個々人のレビュー」の具体的な思考プロセスを表現できるか？



共有と分析に対しての仮説

次に「共有と分析」の部分を考えていきます。



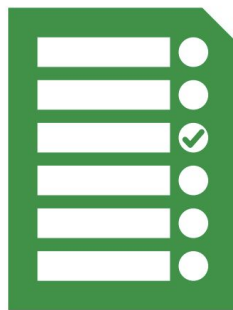
この部分は、レビュアーとドキュメント作成者とのやり取りが重要になるはずですが、
具体的にどのようにやり取りをすれば良いのでしょうか？

やり取りのモデル図

レビュアーは
成果物に対して、
思考をした上で
発言をします。

それをドキュメント
作成者が理解して
ドキュメントの改善
を試みます。

成果物
観点
チェックリスト



レビュアー

理解



レビューイ

思考方法（リーディング技法）は存在する

JSTQB FL
2018年版

このうち、思考方法についての技術である

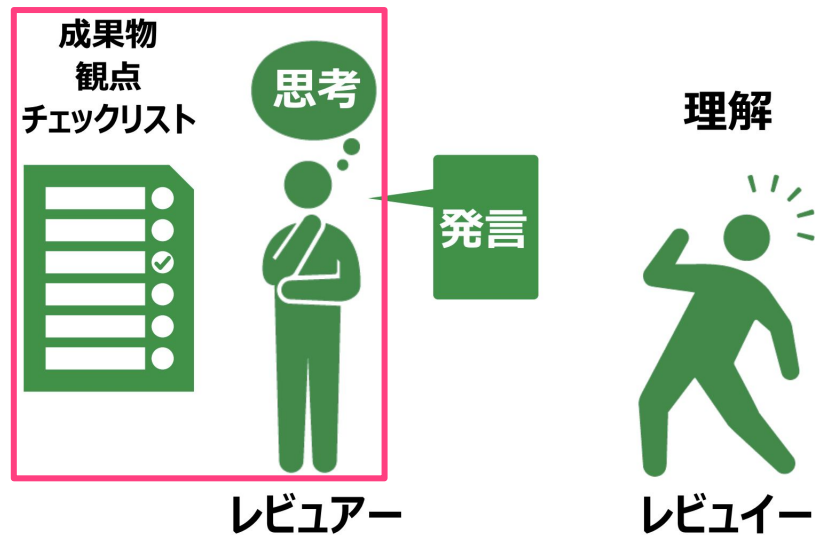
リーディング技法は存在しており、

JSTQB FL シラバス2018年版では以下の4つを明記。

- チェックリストベース
- シナリオとドライラン
- パースペクティブベース
- ロールベース

参考

: [http://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation
Version2018V31.J03.pdf](http://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation_Version2018V31.J03.pdf)



発言の仕方についての具体的記述がない

JSTQB FL
2023年版

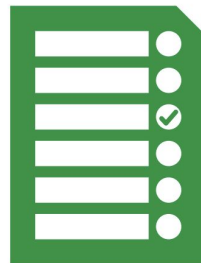
一方、発言の仕方は以下の記述のみ存在しています。

- レビューを組織の文化として定着させ、**学習とプロセス改善を促進**する
- ミーティングを**ファシリテート**する

参考:

https://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation_VersionV40.J01.pdf

成果物
観点
チェックリスト



思考



レビュアー

理解



レビューー

発言の仕方についての具体的記述がない

JSTQB FL
2023年版

一方、発言の仕方は以下の記述のみ存在しています。

- レビューを組織の文化として定着させ、**学習とプロセス改善を促進する**
- ミーティングを**ファシリテートする**

成果物
観点
チェックリスト



「レビューとして
捉えている活動」
において
リーディング技法だけ
が必要な技法であると
認識していた人は
新鮮に感じるかも

参考

https://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation_VersionV40.J01.pdf

レビューアー

レビューイー

発言の仕方についての仮説

私たちJaSST Review実行委員会では、

「レビューとフィードバックは
密接に関わっているのではないか？」

と考えています。

再び

見る

Re-view

@TAKAKING22

参考：[レビュー再定義](#) (JaSST Review'18発表資料)より

「Review」を英英辞典で調べると…

to think or talk about something again, in order to make changes to it or to make a decision about it

「何かを変更したり決定したりするために、何かについてもう一度考えたり話したりすること」

参考：[Cambridge Dictionary](#)（記載は英文。発表者が日本語訳を作成）

「Review」を英英辞典で調べると…

to think or talk about something again, in order to make changes to it or to make a decision about it

「何かを変更したり決定したりするために、何かについてもう一度考えたり話したりすること」

参考：[Cambridge Dictionary](#)（記載は英文。発表者が日本語訳を作成）

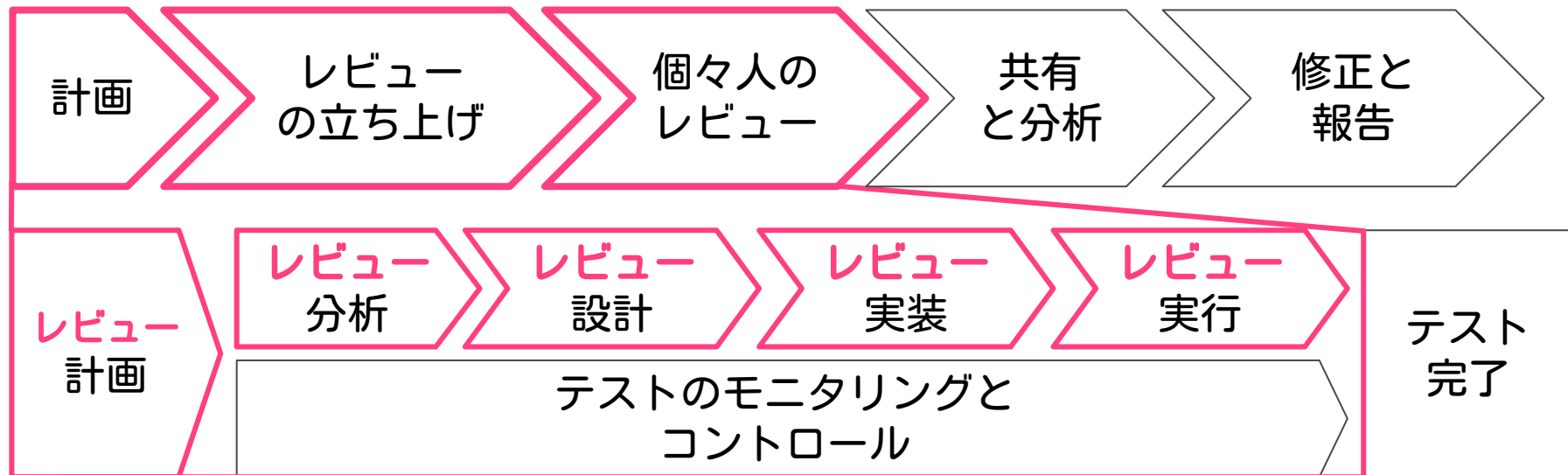
フィードバックでの言動と似ているのでは？

**講演で
期待していること**

時間	題名	登壇者
13:00～13:30	はじめに	風間 裕也
13:30～15:20	セッション1 「レビュー体系化の経過報告： レビュー体系とレビューアーキテクチャー」	JaSST Review 実行委員会
15:20～15:25	休憩	
15:25～15:50	スポンサーセッション	
15:50～16:00	Lisiさんの講演を始める前に	
16:00～16:45	セッション2 「チーム一丸となったテストと 品質のためのチーム変革戦術」	Lisi 氏
16:45～17:30	セッション2のQ&A	
17:30～18:00	クロージングセッション	風間 裕也

再掲：個々人のレビューに対しての仮説

同様の考えを用いれば、「個々人のレビュー」の具体的な思考プロセスを表現できるのではないのでしょうか？



セッション1でお話しすること

同様の「レビュー設計」の具体的な「人のレビュー」の具体的な思考
「人のレビュー」の具体的な思考はないでしょうか？

レビュー設計時に
活用できる
体系化した話
をお伝えする予定です

計画

共有
と分析

修正と
報告

レビュー
計画

レビュー
分析

レビュー
設計

レビュー
実装

レビュー
実行

テスト
完了

テストのモニタリングと
コントロール

再掲：「Review」を英英辞典で調べると…

to think or talk about something again, in order to make changes to it or to make a decision about it

「何かを変更したり決定したりするために、何かについてもう一度考えたり話したりすること」

参考：[Cambridge Dictionary](#)（記載は英文。発表者が日本語訳を作成）

フィードバックでの言動と似ているのでは？

セッション2の講演で期待していること

Lisiさんは、チーム参画後に
素早いフィードバックをした話を
自身のブログで**言語化**して伝えています。

[A Time of Transition - Eight Months on a New Team](#)

※日本語翻訳済み

[【翻訳記事】新しいチームに移って8か月で起きたこと](#)

どのようにして**素早いフィードバック**に
向かうことができたのか、
そのエッセンスを聞ければと思っています。

成果物
観点
チェックリスト



レビュアー

理解



レビュイー

講演を見る際のお願い

講演を見る際のお願い

- SNSへの投稿のお願い
 - 録音・録画**NG**
 - SNS投稿は**OK**
 - SNS投稿は基本“ポジティブ”でお願いします！
 - X(旧Twitter)のハッシュタグ：**#jasstreview**

質問する際には

Slidoから質問をお願いします。



携帯からの場合

左のQRコードからアクセス

PCからの場合

<https://www.slido.com/jp>

アクセスコード: JaSSTReview


質問する際には

聞きたい質問を
入力してください

 質問を入力


人気 最近

14 質問

 事前アンケートより転記
5 分前

0 

レビューで重視すべきはバグの発見でしょうか？それとも拡張性、可読性等のコーディングフォーマットのチェックでしょうか？

 事前アンケートより転記
5 分前

0 

機能仕様書に対してどのようにレビューを行えば良いでしょうか？

投票も可能です

**JaSST Reviewを通じて
レビュー活動の言語化を
チャレンジし、
開発を加速するための
レビューに
繋げてみましょう！**